

風地蔵新聞

第188号
題字 岩瀬桃谷
発行 編集
風地蔵
白石 美帆
〒503-0922
岐阜県大垣市
馬場町85
ご感想・エッセイ・お
寄せ・俳句など
短歌待ちます

ハマりました

大橋 美紀

ほぼ毎日電話をし
ている友達。今、
同級生なんです。今、
かすかに光を感じる
だけ。原因は糖尿症。
い。原因は糖尿症。
色々治療をしてきた
のですが、目が見え
なくなり免疫力も低
下し、歯も歯茎も私
よりもずつと早いス
ピードで老化が進ん
でいる様な状況です。
ピークの時は体重も
90キロ近くあり病
院の先生から痩せる
ようにと言われ、今
は65キロまで体重
を落とす、一年前ま
ではインシュリンを

打っていたのですが、
今はその必要もなく、
1ヶ月の通院で飲み
薬を飲んでいきます。
その友達に6ヶ月
ぶりに会いに行きま
した。毎日電話をし
ているので、久しぶ
りという感じはない
のですが、ほとんど
一日中家にいる友達。
週末はご主人に買い
物や、コーヒーを飲
みに連れて行っても
らったり、近くに住
む友達が連れだし、
ランチに行ったりし
ているようです。
2週間前に約束を
し、なんと行って何
を食すかはランチ。何
の電話で話します。
私はずっと気になっ

ていたスープカレー
は？と聞いたところ、
友達も食べたことな
いとスープカレーに
決定。友達の家から
20分ぐらいの場所
で。とネットで検索
し、写真を見て、情
報を1軒1軒伝え、
あるスープカレー専
門店に決めました。
アパートに迎えに行
き、ナビを頼りに出
発。店に入るとスパ
イスの香りが、私と、
目の見えない友達の
食欲を沸き立たせ、
楽しみがふくれあが
ります。メニューは
全部写真付きで、す
べてに野菜が入って
いるけれど、メイン
が色々あります。ハ
ンバーグやロースト

したチキン、オリジ
ナルのソーセージに
豚の角煮。1日分の
野菜が10種類トッ
ピングも出来、辛さ
も10段階、ライス
も100gから300
gまでそれにサラダ
とドリンクもついて
1080円〜129
6円と、とてもお値
打ちです。一つ一つ
説明をし、友達は頭
の中でイメージしま
す。時間はかかるの
ですが、ゆつくり決
めるのを待ちます。
友達はオリジナルソ
ーシジのライス10
0g、0辛。私はロー
ストチキン、100
g1辛とアイスコー
ヒーを注文しました。
このあとどこ行こう
か。100均に行き
たい。えー100均？
だってゆつくり行っ
たことないし。と話
をしているところへ、

スープカレーです。
大きくカットされた
ピーマン、レンコン、
なす、ゆで卵、ソー
セージ。と説明をし
ました。また素敵な器
でした。味わったこ
とのないスパイシー
さとあつさりした味。
友達のペースに合わ
せ、具やライスはス
プーンにフォークに
刺してあげながら、
初のスープカレーを
楽しみ、二人ともた
ちまち大ファンにな
りました。店を出て、
100均、ケーキ店
でお茶をして送って
いききました。1週間
経って、スープカレー
がまた食べたくなり、
大垣で探しているの
ですが、見つからず。
どなたかいいところ
知りませんか。

あまでうす

『座右の銘』

「その人の席の右側
に置いて、自らの行
いを戒める言葉」が
後に、「常にその人
の心に留めおき、自
分の励ましや戒めの
格言的言葉」に変わ
った。これを『座右の
銘』と言う。
人間を長くやって
いると、この座右の
銘も歳を重ねる度に
変わって増えてきた。
（それはないだろう
：座右の銘なんて変
わらないものじゃな
いのか？）と言
う声がかえり、そ
うだが、あにはから
んや、現実はそのと
は限らないのである。
物の見方や考え方に

変わり、それに伴っ
て座右の銘も変わっ
てゆくのは自然の摂
理ではなからうか。
と、あくまでも個人
的見解ではあるがそ
う思っている。では
その流れを書いてみ
よう。
最初に座右の銘を
心に留めおいたのは、
二十代初め頃であつ
たと記憶している。
社会に出てから仕事
に於いて何かを感じ
たのである。その言
葉は、『行雲流水』
：自然体でいなさい。
そして同時に、『不
易流行』：「ずつ
と変わらないこと」
と、
「変わり続けること」
は同じくらい大事で
ある。という言葉が
閃き、『行雲流水に
学び、不易流行の理
を忘れず』と本の葉
に書きこんで今も使っ

ている。
この二つの言葉は、
禅の教えに従ってい
る。（家が禅宗とゆ
う訳ではない）また
不易流行は、松尾芭
蕉の俳諧の神髄でも
ある。
三十代になると仕
事のみならず、友人
関係、趣味などから
感じ取ったのだから、
『色即是空』：色
即ち空なり。形と
して存在しているす
べての物体には、永
遠に継続しようとし
ない。実態などはな
るものはいつか壊れ
るといつか壊れ
るとや、形の無いも
のはその比ではない。
（既にこの頃、何か
を悟ってしまったの
か……）
四十代になると、
己を見つめる姿勢が

少し変わり、『吾唯
足知（われたただたる
をしる）』：今あ
る自分に満足しなさ
い。
と戒める年代となる。
この言葉も禅の教え
である。趣味で作っ
た、美濃和紙を文字
板にしたオリジナル
時計に、この言葉を
筆で書き、展示会に
出品したこともある。
五十代になると、
ビートルズの歌では
ないが、『Let It Be』
という、日常的な感
覚をもつようになり、
『身過ぎ世過ぎは草
の種』：人生いろ
いろ。と、過去を振
り返ることが多くなっ
たようだ。
六十代には、人生
は旅である。旅もま
た人生なり。と人生
の重さを認識するや、
この歳まで生きたの

だから、『日日是好
日』：一日一日を
リア充で過ごさな
い。と滅法界思う気
持ちは強くなった感
じだ。
そして、七十代と
もなると、命より健
康。これからも常に
変わらぬ人生を送り
たいものだと思うよ
うになり、『七十に
して、心の欲するま
まに従えども矩（の
り）を超えず』：こ
れからも自分の好
きなことをしてゆく
が、人道に外れるよ
うなことは決してし
ないであろう。と孔
子の言葉を今は噛み
締めて日々を送って
いる。
蛇足だが、『座右
の銘』も『座右の銘』
と同じ解釈であると
いう。

おむかえはだれ？

佐藤 李恩

なかなか仕事が忙しく朝7時半過ぎに迎えて18時半過ぎに迎えにゆく生活。らんちゃんとおおちゃんはお決まりのようにいつも最後だ。

冬は真つ暗の中、玄関の一方所だけが光っていて、その灯りの下で背を向けて小さくなって待っている。田舎の保育園だから尚更、幼稚園ですか？というくらい皆迎えが早い。

さてさて、家族会議。延長保育をやめてお母さん（おばあちゃん）が迎えに行ってみてはどうか。私もなるべく早出とか午前中上がりを作つて迎えに行くようにするから。と相談した。まあこの話は前にも出たんだけどお母さんに何でもしてもらっていたらダメだし、保育園の先生やお母さんたちとのつながりも大事だから延長は続ける。と話だった。

らんちゃんと同じクラスのお母さんが「らんちゃんがいっても、もうかえるの？って心細く聞いてくる。連れて帰ってあげたい」と言われた。

私も会社に時間を變更できないか話を持ちかけたが無理だったため、今回お母さんをお願いした。もちろんお母さんは「いいよ」と。

結局、朝夕の送り迎えの時によほど担任の先生が残っていない限り、日中の様子には分からず、連絡帳に頼っているのだ。でもなるべく自分た

ちも勤務調整して迎えに行くようにしていきたい。

早く帰れるようになって家で一緒に過ごす時間、遊ぶ時間話すことも長くなつた。今までは、ごはんだべて茶碗洗つてお風呂入つて、洗濯して歯磨きして、はい寝るよくだったけれど余裕が出来たららんちゃんやおおちゃんの話に耳を傾けられるようになり、又

回っている。優しいらんちゃんもたまにはあおちゃんに「あつちいつて」といつちよう前に言っている。そんならんちゃんやおおちゃんも夜眠っているときは天使のように可愛い。そんな可愛い2人にちゅっちゅしてママは今日もおやすみなさい。

唐津くんちと 佐世保バーガー

佐藤 凱翔

5月5日、佐賀の唐津経由で長崎の佐世保へ。唐津への目的は、唐津くんち。毎年11月にある唐津くんち。一番曳山「赤獅子」が制作されて200年の節目を迎えた特別巡行。令和を祝って特別に1日だけの「祝賀奉曳」がある。もちろんパパもらんちゃんもあおちゃんも初の唐津くんち。

唐津くんちは、ユネスコ無形文化遺産だそう。早く到着して、正午のスタートの前に国指定重要文化財旧高取邸へ。旧高取邸は、杵島炭鉱などの炭鉱主「高取伊好」の邸宅。

お母さんが保育園で無理矢理にも聞いてくる二人の一日の様子がおかずになっている。

もともとテレビは見ないし、つけない事に決めているので話すことも多かったけれど尚、充実している。

最近のあおちゃんやらんちゃんのお似をしたくてらんちゃんの後ろをひつつき約2300坪の敷地に大きく2棟の建物。そこに20年前まで未商の方が住んでいたらしい。2300坪に住む、想像が出来ない暮らし。そんな旧高取邸。大きいだけではない。特にすごいのが杉戸絵と欄間。1つ1つ職人さんの手作り。和風の絵、洋風の絵。細かすぎると思うほどにこだわり抜かれた杉戸絵。さしこむ光で壁に影がうかぶ欄間。うさぎ・鶴・雉・組小細工などなど。ぜんぶ手彫り。しかも1枚物。失敗したならやりなおし。そんな欄間がずらり。文字で説明するのは難しい。いけばわかるこのすごさ。とにかく職人技。考え抜かれた欄間。ほしい。

さてさて昼からは、唐津くんち。じいちゃんとはあちやんは一番先に会場へ。1番曳山「赤獅子」の前で待ち合わせ。しよとのLINE。そのLINEを見て「あかすし」。「あかすしのところだつてよわかる？」。「地図を見る。パパ。」「あかすし・・・あかすし！？」。「なにそれ？」。「まさかと思いきママにLINEを見せてもらおうと

「赤獅子」「あかしし」やっぱり「あかしし」なぞがとけやつと赤獅子の所へ。「怖い怖い」のらんちゃん。鬼に見えて仕方ない様子。近づくと怖がる。「なんでもこい」のあおちゃん。まったく怖くない様子。いや歩くのが楽しくてしかたないだけなのかな？

あまりの人の多さ、暑さで少ししか見えないけどこれぞ祭り。たくましく動く曳山。それを動かす人たち。ユネスコ無形文化遺産見とくべき。そろそろ佐世保へ。

車内ではしつかりぐつすりお昼寝。佐世保への目的は、佐世保バーガー。ステーキ「NOBU」。4月に長崎へこれなかったママ。一番楽しみにしている様子。まだかまだかの晩ごはん。佐世保と言ったらこのステーキ。このためにきたようなもの。もちろん皆、300グラムのステーキ。ボリュームたっぷり。それでもペロリ。らんちゃんとおおちゃんはフィッシュアンドポテトフライ。大食いのおおちゃん。は米もバクバク食べる。一番好きな食べ物。絶対白米。そうパパは思う。らんちゃんとおおちゃん。は、好きな食べ物。野菜好きのらんちゃん。野菜より肉や米！肉食かいじゅうのおおちゃん。たくさん食べたあおちゃん。ゆつくり少づつのらんちゃん。子どもはやっぱりおもしろい。姉妹は。ほかにもある。

例えばサッカー。キックが好きなららんちゃん。ドリブルが好きならあおちゃん。違うようでも似てる。似てるようで違う。それを発見できるとパパは、なんだか嬉しくなる。2人の個性がたくさん育ちますように！さてもう一つの目的。

佐世保バーガー。さすがにステーキの後には食べれない。食べれないこともないけどお腹がすいた一番ベストなときに食べるため翌日の朝ごはんはしよう。朝一番に出来あがるように予約も完了。ママはずつと食べたがつた佐世保バーガー。じゃなくてサンドウィッチ？みんな絶対ハンバーガーが良いと言つても絶対サンドウィッチを食べるという。まあ好きな物をおいしく食べたが良いね。一口ちよくだいを言つてもくれないママ。なんかすごい。そんな感じの長崎・佐賀の旅。

スクスク育つてらんちゃんとおおちゃん。似たようで似てなかつたり、似てないようで似てたりする2人。うまく歩かなくても良いから自分らしく大きくなつてね。



還暦旅行
鎌倉編

鎌澤 宣子

お待たせしました。鎌倉編のはじまり、はじまり。1月16日明け方3時半頃いざ鎌倉に向けて出発です。まだ夜も明けてない真っ暗の中、家を出てきました。今日は、横浜で遊んで、明日17日に鎌倉鶴岡八幡宮にいきます。なぜ鶴岡八幡宮かというと、社長のブログ仲間である大垣風地蔵にも来て下さった事があり、黒川温泉にもいっしょに行つた事がある家族ぐるみでおつきあいのあるパソおやじさんとさくらさんの息子さんの結婚式があるのです。社長と隆男さんもお式に参列されるという事で、私も久しぶりにパソさんや、さくらさんにお会いしたい。そして私もお祝いしたいという事で、鎌倉に行く事になりました。息子も鎌倉にいつてみたのとい言ってくれたので、せっかくいくのなと、前日から出発して横浜赤レンガ倉庫や、山下公園、中華街、そしてお客様からお聴きした水陸両用バスなどに行つてみたい所や乗つてみたいのが、満載なので夜明け前から経つことにしたので。さすがに高速を使いませぬ。途中サービスエリアで休憩しながらいき

ます。5時50分頃、突然富士山が目飛び込んできました。雲もかかってない頂上までくつきりと見える富士山に、一瞬何つに感動にかかります。あわててスマホ、スマホと息子も心得ていて、なるべくゆっくり走りつてくれます。高速なのに(笑)。そして20分後位に朝日が出はじめて富士山が赤く染まってきました。何かいい事のある前兆のような瞬間です。社長や大橋さんにはようメールととも送りました。社長から、「早っ!!!もう向かつてるの。きれい!富士山がこんな上まできれいに見えるのはなかなかないよ!」と返信。たしかにそうだと思います。6時30分頃には、御宿のあたりで、富士山の上のほうは、雪で白く、中腹から下は、朝日で赤く染まってめちゃくちゃきれい!!!一時間くらい富士山を楽しませてもらいました。明日の結婚式もきっといい日になりますね。高速をおりてまずホテルの場所を確認するたに、平塚に向かいます。横浜と鎌倉の間をとって平塚駅近くのホテルにきめたのです。平塚駅の近くに鎌倉には、明日の鎌倉には、電車で行く車場の場所も分から

ないし、料金もわからないのと結婚式を観たあと、鎌倉観光をしたかと思つたので、江の電にも乗りたいです。楽しみが多くてワクワクします。息子は、イライラしてます(笑)。「どこや?」「わからん」とぼやいていきます。このあと横浜にいくので、先が思いやられますね。さてさてこのあとの珍道中、どんなハプニングが起こるやら、お楽しみに。横浜の珍道中は、次回に。つづく

洗濯とお手伝い

結婚して16年自分で洗濯をした記憶がない。独身で一人暮らしをしていた時は、もちろんやっていた。子供が四人。長女のお産時だけ実家に戻っていたが、それ以外は嫁さんが家に居た。今更ながらどうしていたんだろう?嫁がしてくれたのか?お隣の実家で洗ってもらったのか?

洗剤を入れてスイッチオン!のはずなのに、多分使えないのでは?

日曜日は長女は陸上部のジャージ、野球組はじぶんも入れてユニフォーム4着。泥だらけなので「手洗い」その他洗濯物モリモリで1日に洗濯機何回回すのだろう。

中学の長男は「ユニフォーム洗ってもらうから」と夕飯の皿洗いを買って出ている。

じぶんも何か「お手伝い」しないと。。。

庭師 奥田良樹

